



▲写真3：バンブーシャワーで涼むペンギンたち

また、繁殖面では、産卵前、そして産卵後の育雛(いくすう)に使用する巣の入口を狭くし、(写真4)より落ち着いてヒナを育てられるような巣穴に改良しました。



▲写真4：目隠しされた巣の入口

## 新規個体の導入

H14年に複数羽死亡したことにより個体数が減少していましたが、秋田県男鹿水族館から3羽、東京都葛西臨海水族園から4羽、豊橋市豊橋総合動植物公園から2羽、愛知県の南知多ビーチランドから2羽、合計11羽のペンギンを各園の多大なるご厚意によりお譲り頂き、いよいよ大森山動物園でフンボルトペンギンを自然繁殖させる「体制は」整いました。

## 初めての自然繁殖

様々な改善を加え、新規個体の導入も行いましたが、当園が今まで自然繁殖に成功したことがないという事実は、私にプレッシャーという形で大きくのしかかっていました。

そんな中、平成15年8月12日、公休日だった私の携帯に一通のメールが届きました。内容は忘れもしません。一文のみで「ペンギンにヒナ誕生！」でした。

さらに翌日には2つ目の卵も無事ふ化に成功しました。この喜びは親ペンギンにも伝わったのか、その後の観察からは2羽のヒナを大事そうにオス、メス交代で温める姿や、餌を食べさせている姿も確認されました。(写真5)しかしながら喜んでばかりもいられません。この「一例」では、目標である「順調かつ定期的な繁殖」とは言えないからです。次のステップとして求められたのは違うペアでの自然繁殖成功でした。

## 2例目の自然繁殖に成功

そしてついにその時がやってきました。1例目と別のペアが平成15年12月15日、17日と自然繁殖による2羽のふ化に成功、また別のペアも12月28日に1羽のふ化に成功したのです。さらには今年になっても好状況を持続し、5月29日、31日と2羽がふ化し、6月14日現在その2羽が順調に生育していることを確認しています。



▲写真5：ヒナを大事そうに温める親ペンギン

「順調かつ定期的な繁殖」に向け走り続けて1年が過ぎた今になって、ようやく私は大きなプレッシャーから放たれ、「安堵のため息」をつくことができた気がします。

## 最後に

これらの自然繁殖成功例から「栄養面、環境面の改善が実を結びました。」と言いたいところではありますが、いくつかの改善の内「何が良かったのか」ははっきりとした理由は分かっていません。しかし、担当になって1年ちょっとの私にも一つははっきりと分かったことがあります。それは、「生息地」での生活環境を理解し、その中から「飼育下」との違いを見つけ、最大限両者の差を少なくすることが、ペンギンだけではなく、同じように本来の生息地からかけ離れた環境で暮らしている動物園の動物たちのためになるということ。

これからも遊びに来てくださったお客様に、元気いっぱいプールを「飛び回る!？」ペンギンを見てもらえるよう、さらなる努力と研究を重ねていきたいと思えます。